

ハンバーガー通信【発信・貢献・協働】

令和4年12月13日（火）第21号

長崎市立桜馬場中学校 2年4組担任 草野友希

サッカーワールドカップ 4組も白熱しました！

そんなにスポーツに興味がない私でも、見なきゃいけない！と思わせるくらい盛り上がったサッカーワールドカップ。生徒たちも夜中まで頑張って起きて、応援していた子も多かったようです。やはり次の日は、みんな朝から眠そうでした。（担任は途中で寝てしまいました。）

4組教室の黒板横には私が気になった広告や新聞記事を選んで、定期的に掲示しています。生徒たちの中には興味をもって見ている子いるようですが、最近ワールドカップの記事を4組の生徒たちに見せました。森保監督が選手の時に感じたことを綴った2018年の記事です。何も知らない私にとって、あの試合がどれだけの想いが込められた試合だったのか「ハッとした」記事でした。

内容を掲載しますので、読んでみてください。

「あの日、夢破れた君へ」

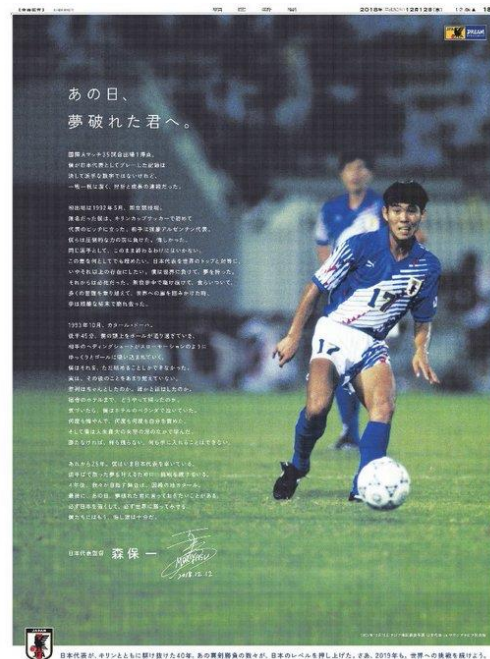
国際Aマッチ35試合出場1得点。僕が日本代表としてプレーした記録は、決して派手な数字ではないけれど、一戦一戦は濃く、挫折と成長の連続だった。初出場は1992年5月。国立競技場。無名だった僕は、キリンカップサッカーで、初めて代表のピッチに上がった。相手は強豪アルゼンチン代表。僕らは圧倒的な力の前に負けた。悔しかった。同じ選手として、このまま終わるわけにはいかない。この差をなんとかしてでも埋めたい。日本代表を世界のトップと対等に、いやそれ以上の存在にしたい。

僕は世界に負けて、夢を持った。それから必死だった。無我夢中で駆け抜けて、食らいついて。多くの苦難を乗り越えて、世界への扉を開けかけた時、夢は残酷な結果で崩れ去った。

1993年10月。カタール・ドーハ。後半45分。僕の頭上をボールが通り過ぎていき、相手のヘディングシュートがスローモーションのように、ゆっくりとゴールに吸い込まれていく。僕はそれをただ、眺めることしかできなかった。実は、その後のことはあまり覚えていない。整列はちゃんとしたのか。誰かと話したのか。宿舎のホテルまで、どうやって帰ったのか。気付いたら僕は、ホテルのベランダで泣いていた。何度も悔やんで、何度も何度も自分を責めた。そして僕は、人生最大の絶望の渦の中で学んだ。勝たなければ何も残らない。何も手に入れることはできない。

あれから25年。僕は今、日本代表を率いている。道半ばで散った夢をかなえるために、挫折を続けている。4年後、我々が目指す舞台は、因縁の地カタール。最後に、あの日夢破れた君に、言っておきたいことがある。必ず日本を強くして、世界に勝ってみせる。僕たちにはもう、悔し涙は十分だ。

日本代表監督 森保一 （2018年12月12日 朝日新聞記事）



保護者の方へ連絡

◎提出物

さくらの学び…16日（金）×切り 補助教材…16日（金）納入日

◎14日（水）LGBTQ講演会、学年・学級PTA（茶話会）

今回の学級PTAは、日頃の様子をお話しさせていただきただけなので、当日参加・途中参加でも大丈夫です。ぜひ、お気軽にご参加ください。茶話会は役員さんにお菓子を用意していただきますので、マイボトルなど持っていただければと思います。（なくても大丈夫です！）よろしくお願いします。